

【JNSA】2026年度活動報告会 社会活動部会パネルディスカッション

「大量パッチ時代の脆弱性対応」

～フロンティアAI時代に我々はどう対応すべきか？～

岡田 良太郎 Riotaro OKADA

株式会社アスタリスク・リサーチ 代表取締役

2026.07.24

ソフトウェアの「作る側・直す側」を支援してきました

position



岡田 良太郎

riotaro@rsrch.jp



名刺はこちら(Eight)

ビジネス — アスタリスク・リサーチ 代表取締役

- セキュリティテスト as a Service (継続型の脆弱性テスト)
- SAST・SCA・IaC・API・SBOM管理 を束ねる ASPM サービス提供 (EU CRA/DORA対応)
- プロダクトセキュリティ改善に向けたグレイボックステスト
- PSIRT 伴走支援
- OWASP SAMM プラクティショナー (成熟度評価とロードマップ)

コミュニティ

OWASP Japan Chapter Leader / OWASP Top 10:2025 日本語版翻訳リーダー / Hardening Project 実行委員・オーガナイザ

その他

兵庫県警察 サイバーセキュリティ対策アドバイザー / 沖縄型産業中核人材育成事業 実行委員 (内閣府 沖縄総合事務局) / 東洋経済オンラインで AI 時代の脆弱性対応を連載中 / CISA・MBA

見つける力が爆発した。詰まっているのは、直す側

my concern

発見は、もう人間の速度ではない

フロンティアAI が数か月で1万件超の重大な脆弱性を発見 (Glasswing)

詰まるのは受け取って直す側 — つまり開発現場

修正が追いつかず「開示を遅らせてほしい」という声すら出た
パッチの生産も消化も、開発組織の仕事のど真ん中に来た

根性では続かない — 仕組みで回す

検証と可視化を決定論的な仕組みとして持てるか
AI は作業の代行でなく、仕組みづくりとその調整に使う

7つの論題、わたしはこう斬る

where I stand · the 7 themes

① 急増の実感

見つける速度が人間の桁を超えて、いま詰まっているのは「直す側」ではないかな

② 何が「無理」

全部に総力をあげるのが、もう無理。発見の量が人の手を超えたように見えることが無理、しかし

③ 「当たり前」の変化

「通知が来てから直す」では列の最後尾。先回りが成功者の当たり前になります。Cf ニチレイ

④ 優先順位

件数を追うのをやめて、リスクで選ぶ。CVSS と自社のリスクは別指標

⑤ 誰が・何を

発見は AI とベンダー、修正は開発現場、そして説明する責任は自社経営の話

⑥ 5年後

「OSS を待つだけ」の時代が終わり、仕組みで回せる会社だけがWinner

⑦ 明日の一步

自社の立ち位置の再認識と、事業を構成するシステムの優先順位を「30分で」決めることをやるように

たぶんここが2026年7月現在のキモ

one question for the panel

業務システムの優先順位と取捨選択を、
何分で決められるか。